

**介護事業所等における「新型コロナウイルス感染症対策」  
「コロナ禍における人材確保・育成状況」に関する事例集**

# 概要

## 1. 目的

各介護サービス事業所の新型コロナウイルス感染症対策の事例を募集し、周知することで、事業所間での感染症対策の共有を図ると共に、各事業所でのコロナ禍での人材育成の状況、また各介護福祉士養成校の学生の取り組みや思いをまとめることで、両者の情報共有を図る。

## 2. 募集事例

### (1) 事業所

- ・事業所での新型コロナウイルス感染症対策について
- ・新型コロナウイルス感染症拡大下での人材育成について（実習生の受け入れなど）

### (2) 養成校

- ・新型コロナウイルス感染症拡大下での介護に関する環境変化について（実習、講義）
- ・自身の将来について（介護に関することなど）

## 3. 回収数（事業所）

アンケート募集期間 令和2年10月6日～令和2年10月28日

回答数 約250事業所



New Lifestyle, New Niigata

さあ、新しい日常へ。

# 目次

第1章	介護サービス事業所における感染対策について……………	1
第2章	コロナ禍での人材確保・育成状況について……………	6
第3章	個別事例（介護サービス事業所）……………	10
第4章	個別事例（介護福祉士養成校）……………	14

第1章 介護サービス事業所における感染対策について

# 1. 面会に関する感染予防

## ポイント

- 新型コロナウイルス感染症対策との観点から、利用者への面会に関して、繊細な対応が求められている。
- 検温や消毒を行い、時間制限を設けて面会を実施している事業所やオンラインでの面会を実施している事業所が多くみられる。
- 一定のルールを設定やICTの活用による利用者への面会を実施していることが伺える。

## 事業所からご提供いただいた事例（抜粋）

- ご家族の面会は、平日のみ予約制、3名まで15分程度。検温、状況確認表にてチェックしていただく。(相談室にて、仕切りをした上でマスク着用で面会)
- 面会者名簿への記載の徹底及び、面会時必要最小限の接触者となるようダイフロア内での面会は中止し、相談室での面会を行っている。また、マスク・消毒を必ずしていただいている。
- ご家族様、ケアマネの面会時には、マスクとフェイスシールドの着用をしていただいている。フェイスシールドは事業所で用意し、希望者には購入していただいている。
- 面会はLINEビデオ通話で実施。希望されるご家族様とは連絡もLINEにて。
- ご家族との面会をipadを使用したオンライン面会に切り替えている。
- 面会を予約制にし、面会室に飛沫防止パネル等を設置し、オンライン面会も対応している。

## 2. 消毒・換気・検温について

### ポイント

- 感染防止のためには、手洗いや消毒の適切な方法の把握、定期的な換気、職員や利用者の体調管理等が必要である。
- 多くの事業所から、消毒・換気・検温に関する感染予防対策の事例提供があった。
- 介護における標準予防策（スタンダードプリコーション）や、職員・利用者の健康管理の徹底が伺える。

### 事業所からご提供いただいた事例（抜粋）

- 固定電話は1回使用すごとに消毒液にてふき取っている。
- 各ユニットごとに、午前・午後の2回、アルコールで全て消毒を行っている。
- 囲碁、将棋、オセロ、鉛筆、色鉛筆、パズル等の物品を夕方消毒している。
- 1時間ごとに10分の換気と、2時間ごとの職員とお客様の触れるところの消毒を行っている。
- 食事の際には、窓を開けたり換気扇を回したりして空気の換気を行い、会話は謹んでもらっている。
- 1ケアごとに手洗いをしている。
- 発熱症状については37.5℃に拘らず、普段と違う発熱について注視している。できるだけ発熱の要因は何かご家族に聞き取る等している。（微熱等での一律の受け入れ拒否をしないため）
- 職員の体調管理票を作成し、毎日体温と体調の様子を記入し管理している。

# 3. 三密防止について

## ポイント

- 感染拡大防止の観点から、「3つの密」（「換気が悪い密閉空間」、「多数が集まる密集場所」、「間近で会話や発声をする密接場所」）を避ける必要がある。
- 食事提供時や職員の休憩時に間隔を空けたり、同一方向に向いたりすることで3密対策を行っている事業所が多く、また、オンラインや郵送による代替手段で集合する機会を減らしている事業所も多くみられる。
- 利用者だけでなく、職員間においても、3密を避ける取り組みを実施していることが伺える。

## 事業所からご提供いただいた事例（抜粋）

- 職員休憩室においても換気を行い、同一方向に向き、間隔を空け、会話をしないことを徹底している。
- 施設内はもちろん、事務所・休憩室の換気、消毒を徹底している。利用者様のことはもちろんだが、スタッフが事務所・休憩室で密にならないように考えている。（意外と盲点のような気が）
- 行事、クラブ活動などは、3密を避け、少数単位・小規模で実施。楽しみ事の提供は継続している。
- 食事提供時、利用者は、横の間隔を空けて並んで座ってもらっている。
- 事業所内の行事（お出掛け）を人混みを避けた公園や車窓ドライブで対応している。
- 夕礼を無くすことにより職員が多数集まることを防いでいる。そのための情報共有はオンラインで共有している。
- 事業所への書類交付は、可能な限り郵送。事業所からの書類受領も玄関書類受けに投函。
- 食事提供時、利用者同士が一方向を向き、横の間隔を空けて並んで座ってもらうことに加え、アクリル板等にて飛沫防止を実施。

## 4. その他感染予防について

### ポイント

- その他にも、感染発生時のシミュレーションを行い、ゾーン分けを行ったり、感染対策委員会を開催することで情報共有を実施しているなどの事例があった。
- 感染対策を効果的に実施するためには、介護職員 1 人 1 人が正しい知識を持ち、実践することが重要である。厚生労働省作成の「高齢者介護施設における感染対策マニュアル改定版」や「介護現場における感染対策の手引き」、国の事務連絡等を事業所内で共有し、適切な感染予防対策の実施が求められている。

### 事業所からご提供いただいた事例（抜粋）

- 感染発生時のシミュレーションを行い、ゾーン分けの検討などを実施している。
- 職員向けに私生活での注意事項の配布、勤務中の注意事項の周知、職員向けQ&A作成を作成している。
- 毎月、感染対策委員会を開き新型コロナウイルス対策について話し合い、職員に新しい情報等を伝えて実施している。
- 検討し始めの頃は感染者が発生した場合の対応について案内することを考えていたが、その案内を受ける側は不安や心配の種を受け取るようなものと考え、どんな状況でも変わらない支援をしていくメッセージとして連絡体制と職員体制を再案内（重要事項説明の際に連絡体制と職員体制を案内しているため再案内）した。
- 独自に「新型コロナウイルス感染症対策ご協力のお願い」を作成し、訪問時に配布・説明を行い、マスク着用をお願いし、距離を置いたり、対面に座らない等、新しい生活様式を実践している。
- ご利用者が37.5°以上の発熱が確認された場合、隔離対応居室にて改善されるまで感染予防手順に沿った介護・看護を行っている。



第2章 コロナ禍での人材確保・育成状況について

# 1. 人材育成のための研修について

## ポイント

- 介護人材の定着や質の向上のためには、内部研修の実施に加え、外部研修受講に対する配慮や、資格取得に係る費用の負担など、職員への支援が重要であるが、新型コロナウイルス感染症により、集団研修等の実施について大きな影響が出ていると考えられる。
- 参加人数を減らしたうえで研修を実施したり、オンライン等のリモートでの研修開催や研修内容の録画等に対応している事業所が多くあった。
- 事業所の様々な工夫により、職員に必要な研修の実施を継続していることが伺える。

## 事業所からご提供いただいた事例（抜粋）

- 職員研修については人数制限し密を避け、開催回数を分けて実施。また、WEB会議・研修を実施している。
- 施設内研修は、間隔を空け換気を行い実施。また、録画を撮り参加できなかった職員に見てもらう。
- 職員研修については各自でパソコンやスマートフォンを利用してオンラインで定期的の実施している。
- youtube等の配信を利用した研修を行っている。
- 職員研修は大人数の集合研修を避け、少人数での実施やレポート研修を行っている。
- 研修については他部署交流を控えていることから法人全体での研修が困難である。現在、リモート環境を整えながら部署内の研修を進めていく予定にしている。
- 研修や通知等は全面的に書面で回覧している。質問等が必要な場合には書面やメール等で実施している。

## 2. 就職・採用について

### ポイント

- 職員の採用にあたっては、対面での説明や面接、事業所見学などが基本となるが、新型コロナウイルス感染症により、新卒者を対象にした合同就職説明会や介護施設への見学会が中止、または人数制限を設けたうえでの開催となるなど大きな影響を受けている。
- 対面での面接ではなく、オンラインを通してリモートで面接を行ったり、少人数で介護施設見学会を実施している事業所が多くみられた。
- 必要な人材を確保するため、様々な手法をとる中で、従来の採用活動からの変化がみられる。

### 事業所からご提供いただいた事例（抜粋）

- 積極的な採用活動、営業活動ができない代わりに、Instagramを開設。
- 就職希望者のための介護施設見学会についても、オンラインを利用し実施している。
- 現在、学生の採用にも力を入れているが、資格を持っていない方がほとんどである。コロナ禍で資格養成講座も減少しているが、会社負担で資格取得費を出し広い人材確保を行っている。
- 会社見学は採用担当者1名のみで行い、事前に検温、マスク着用をお願いしており、入居者と接することがない玄関から出入りしてもらっている。
- 就職希望者のための施設見学会を少人数に分け、事業所内には入らず玄関先での説明と外観の見学を行っている。
- 現在は新規の採用は募集していないが、必要になった際にはリモートでの面接を実施する予定。
- 採用面接は、窓を全開にした部屋で、お互いに検温とマスクを着用し、向き合わない様にして実施をしている。

# 3. 実習生の受け入れについて

## ポイント

- 養成校で学習した介護の考え方や介護技術について実践する場として、介護現場での実習の機会は欠かせないが、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの介護現場で実習が中止になっている。
- 実習生の受け入れを中止した事業所も多くあったが、現場実習の代替手段を用意したり、感染防止を徹底した上で、受け入れを行った事例も多くあった。
- 十分な感染対策と体調管理に加え、学校との調整により、受け入れの判断を行っていることが伺える。

## 事業所からご提供いただいた事例（抜粋）

- 現場実習は、学校側から中止の連絡があり、パワーポイントでの施設紹介を作成している。（福祉系学校の先生に協力する形）
- 実習の受け入れに関して、事前に学校側へ感染対策に関する方針を示した文章を送り、承諾を得た上で受け入れを行っている。
- 実習受け入れについて、独自のマニュアルを作成し、後進育成を主目的として受け入れを行う。
- 実習生の受け入れは、学校側の対策を確認し、対策が十分に講じられていると判断された学校からの実習受け入れを行った（いずれの学校も十分にご対応いただいているため全て受け入れを行った。）
- 学校からの実習生の受け入れについて、本人の体調管理を徹底していただき当日の体調の確認を行い、学校と連携して受け入れを行っている。
- 学生の実習受け入れは、机上学習を原則として受け入れ実施。
- 施設見学は極力お断りしているが実習生は感染対策を徹底することで受け入れを行っている。（施設における感染対策の重要性を直に感じてもらうこともよろしいかと。）

第3章 個別事例（事業所）

# 【オンライン面会の実施】

法人名：医療法人 青松会

事業所名：介護老人保健施設 松浜さくら園

サービス種別：介護老人保健施設

## 取り組み内容

- ・家族面会をリモート及びタブレット方式で行っている。台数が限られているため、2フロアが重ならないよう、窓口を1本化している。
- ・受付は相談員。リモート面会は家族担当を相談員、ケアマネ。入所者担当は介護・看護職員と分けている。
- ・1日午前、午後と2組、1家族2人までとして、15分間を目安としている。



## 対策のポイント・効果

### ➤ 対策のポイント

- ・利用者、家族担当を分けてさらに、それぞれの付き添いを部署ごとに分けることでさらに感染リスクの低下につなげる対策を行っている。

### ➤ 対策の効果

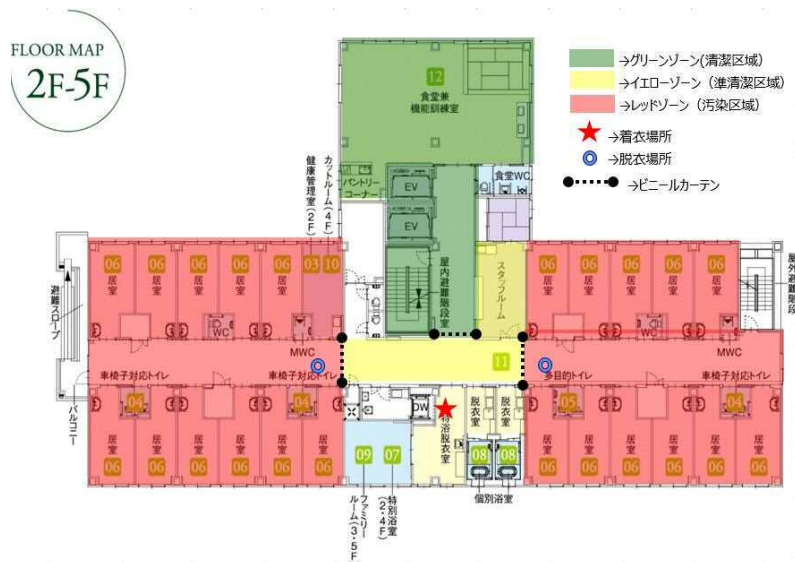
- ・タブレット面会については、緊急事態宣言が出ている都道府県に住んでいる家族の方は「行けないけど、顔が見られて良かった。」との感想があった。

# 【ゾーン分け方法の検討】

法人名：医療法人 愛広会

事業所名：介護付有料老人ホーム愛広苑壱番館

サービス種別：特定施設入居者生活介護



## 取り組み内容

- ・感染対策委員会にて、新型コロナウイルス感染症発生を想定して、ゾーン分けの方法を検討した。
- ・協力医療機関の医師にも内容を確認していただき、アドバイスいただいた。

## 対策のポイント・効果

### ➤ 対策のポイント

- ・全室個室であり、部屋移動が容易でないことから、同フロアで一人でも発生した場合、全室レッドゾーンとし、居室内対応を原則とする。

### ➤ 対策の効果

- ・マニュアル化しておくことで、発生時の初動がスムーズになると思われる。

# 【Instagramで施設を伝える】

法人名：医療法人 仁成会

事業所名：老人保健施設第二にいがた園

サービス種別：介護老人保健施設



## 取り組み内容

- ・第二にいがた園では、2020年5月にInstagramを開設して、施設の様子や雰囲気、考えを発信している。
- ・事務長、相談員、ケアマネを中心に、9ヶ月で29件(月2~3件)投稿した。

<https://www.instagram.com/dai2niigataen/>

## 対策のポイント・効果

### ➤ 対策のポイント

- ・「#」ハッシュタグに気をつけ、グループ施設も入れています。投稿テーマに関する「#」を入れると幅広い方から見てもらえる。
- ・全世界に公開されるため肖像権に配慮し、ご利用者様は映らないようにしている。最近、ご家族様からの認知も高まってきた。

### ➤ 対策の効果

- ・フォロワー数270人（2021年1月16日現在）です。1投稿当たり30件前後の「いいね！」をいただいている
- ・フォロワーが多い事業所と比較すると、顔が映らないためフォロワーが少ないが、施設見学の代替手段として使用している。



## 第4章 個別事例（介護福祉士養成校）

# 【連携施設授業】（新潟医療福祉カレッジ）

## 取り組み内容



- ・新型コロナウイルス感染症を受け、学生が施設へ行くことができなくなってしまったので、施設職員からオンラインでの授業参加や利用者へレクリエーションをオンラインで実施するなど工夫をした。
- ・回数を重ねることによってお互いもオンラインで対応できるようになり効果もあったと感じている。

## 新型コロナウイルス感染症を受けての学生の感想

- ・学校ではオンラインで授業がすすみ、イベントが中止になり、実習先の施設にも行けなくなりました。とても悲しかったですが、このような状況でも、オンラインを活用することで施設の方と授業ができました。この経験から施設と繋がることの大切さを改めて感じました。
- ・施設では、家族との面会が減ったことや、窓越しでしか会えず寂しい思いをしている利用者の方が多く、笑顔が少ないように感じました。そんな中で、パソコン越しでも私達学生と関わることで利用者の方は笑顔で喜んでくださり、とても嬉しかったです。
- ・就職した際、ウイルス対策などで不安なことはいっぱいあります。しかし、授業を通して利用者や信頼関係を築けている施設の方を見て憧れ、施設で働きたいと強く感じています。やはり小さい頃からの夢である介護の職業への期待の方が大きいです。

# 【地域活動演習】（新潟医療福祉カレッジ）

## 取り組み内容



・新型コロナウイルス感染症を受け、学生が施設へ行くことができなくなってしまったので、オンラインで利用者に対してレクリエーションを実施した。施設職員に仲介してもらいスムーズに進めることができた。

## 新型コロナウイルス感染症を受けての学生の感想

- 2020年コロナウィルスが流行り学校がオンライン授業になったり、実習の受け入れが難しくなった施設などが増えてきてます。マスクをして利用者の方と接すると顔の表情が見れず介護がますます難しくなっていくと感じました。
- 実際に利用者に関わったり介助を行ったりして、コミュニケーションを取るうえで工夫すること、介助が思うようにいかないことや分かりやすい声かけを行う難しさなど、体験しなければ気づかなかったことが多くあった。今後も実習を行い、学びをより深めていきたいと感じた。
- 就職するにあたり介護職は密を避けるのは難しい仕事だと思うため、コロナウィルスになる可能性も高いことは不安です。しかし、このような状況だからこそ、介護の仕方も変わってくると思い、新しい介助の仕方を学ぶことができるのではないかと期待もしています。

# 【授業・実習について】（国際こども・福祉カレッジ）



## 取り組み内容

### 【授業】

- ・4月中は内部教員のみオンライン授業
- ・5月～非常勤も含めオンライン授業
- ・6月～対面授業 実技等はマスク着用の上、手作りのフェイスシールド、手袋をはめて実施した
- ・長期休暇の後、実習前等、必要に応じオンライン授業

### 【実習】

- ・施設の受け入れ可能日程に合わせ、スケジュールを変更した

## 新型コロナウイルス感染症を受けての学生の感想

### 「介護実習等によって、実際に介護現場で勤務をして感じた事」

- ・ コロナ渦の中、17日間に渡って介護実習に行ってきた。介護現場はどれほど慌てふためき、先の見えない不安に恐れおののいているのか、そんな光景を見るのではなかろうかと考えていた。だが、実際の現場ではそんな弱さは微塵もなく、働いている職員からは「やり抜くのみ」という強い思いを受けた。触れることを基本としている仕事。その中で、できることをやり抜いていた。アルコール等による除菌、飛散防止、三密回避など増える仕事量の中、やり抜いていた。「これが日常です」と言わんばかりに自然に。
- ・ 家族との面会が出来づらい環境で、電話や手紙、写真に始まり、オンライン面会、ガラス越し面会と安全第一の中で、少しずつ少しずつ出来ることを増やしていた。施設が一丸となって、やり抜いていた。

### **「新型コロナウイルス感染症によって、介護福祉士養成施設での講義や実習における変化について感じた事」**

- 私は、新型コロナウイルス感染症により、普段の授業の進行がどのように行われるのかということや介護実習における影響はどれくらい生じてしまうのかなど不安を感じながら過ごしていました。講義においては、普段のような登校での対面授業が満足に行えない状況が続くことによってZOOMでのオンライン授業という形になりました。オンライン授業では、自宅で授業が行えるということで多少リラックスした状態で受けることができましたが、やはり普段の教室で授業を受ける時のクラスメイトの反応や雰囲気を感じる事が難しいという点や、電波状況による映像や音声による不具合などで満足できないこともありましたが、回数を重ねることでオンラインによるメリットも沢山感じることもありました。
- 次に、介護実習においてですが、初めの予定より少し先延ばしになりましたが実施可能ということが決まり、なんとか実習を行うことが出来ました。そこでも、コロナウイルス感染防止としてマスクを着用し、通勤時と施設内で使用するマスクを分けるということや、毎朝の体調記録を担当職員の方に確認していただくことになりました。
- そのなかで、一番不便を感じたことは利用者様と関わる際にマスクにより表情を伝えることが難しくなるということでした。目元だけで笑顔など、表情を伝えることは難しいと感じたので大きな声で笑ったり、声かけを行ったりなど工夫をしながら利用者様と関わるように心がけることで一緒に喜んだり感情を共有することができたと思います。
- また、1年時と2年時での変化について感じたことは、1年時と比べて2年時のスタートが遅れてしまい、満足のいくスタートを切れないままオンライン授業や課題を行っていました。ですが、段々生活状況にも慣れて進路について考えたり、国試に向けての学習の姿勢など着々と進めていくことができたと思います。
- また、専門職としてどんな変化や影響にも耐えながら、臨機応変な対応ということが求められると思いますが、今回コロナウイルス感染防止を心がける生活を行うことで忍耐力や思考力などがとても身についたように感じる事ができました。

### **「新型コロナウイルス感染症に関する事も含めて、介護業界へ就職するにあたり、期待している点、不安を感じている点」**

- 新型コロナウイルスの感染拡大が留まらない今、私は介護業界へ就職するにあたり、様々な不安や期待を感じています。今や新型コロナウイルスは、いつ、誰が罹ってもおかしくない状況となってしまいました。自分が知らない間に感染してしまい、利用者様にうつしてしまうのではないかと不安や恐怖があります。ご高齢の方や持病のある方は重症化のリスクがとても高く、危険な状態になる可能性があるため、徹底した感染対策が必要になります。感染症が流行している今だからこそ、職員間でのやり取りや、チームで共通認識を持ち、より一層利用者様の様子や変化を気にかけることができるのではないかと期待を感じています。利用者様の命を第一に、そして自分も感染しないために、感染対策を心がけていきたいです。

# 【授業・実習について】（新潟医療福祉大学）



## 取り組み内容

### 【授業】

- ・前期授業はすべてメディア授業であったため、少しでも理解が深まるように、介護技術の動き方やスライド等の資料を工夫した。
- ・後期授業の演習科目は対面授業となった。体温・消毒・マスクの他（マスクは授業前に毎回取り替え）、換気の徹底、フェイスシールドの使用、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策マニュアルの作成等を行い、接触・共有・密着する授業を可能としたことで、学生が安心して受講できる環境を整えた。

### 【実習】

- ・学外実習用のガイドラインを作成し、実習施設に感染症拡大防止対策について文章および電話にて説明をした。実習期間を短縮した。また、一人ひとりに消毒液・マスク・除菌シート・ゴミ袋を持参させ、「健康観察及び行動記録用紙」の記入を徹底した。

## 新型コロナウイルス感染症を受けての学生の感想

### 【授業】

- ・メディア授業では、グループワーク活動ができるように設定していただき、会えない状況の中、仲間と交流できて良かった。また、スライド資料を用いて授業を行っており、少しでも理解ができるようにしていた。
- ・対面授業では、定期的に換気をしたり、介護実習室に入る際はマスクを取り替え、靴の消毒をするなど感染症防止対策が徹底されており、できる限り演習が行えるよう配慮されていて、安心して受けることができた。また、先生方や学生と直接話しあえ協力して学ぶことができたので嬉しかった。実際に実践してみないとわからないことが多く、直接目で見て実践的に知識や技術を学ぶことができ安心した。

### 【実習】

- ・職員の動揺や焦り感染症対策の動きを間近で見ることができた。メディア授業の日々が続いたことからの実習に対する不安に加え、感染者が増えていく中で実習が中止になるのではないかと、感染しないか、感染させてしまうのではないかと不安が強かった。
- ・実習日数が短縮したことは残念だが、受け入れてくださった実習施設に感謝の気持ちはもちろん、自分もより一層学ぶ姿勢をもつこと、感染症対策に気を配ることの意識を強く持つことができた。思い通りに行かない時期で満足にはできなかったが、その中でも利用者とコミュニケーションを図り、貴重な体験ができ多くのことを学べてよかった。
- ・大量のマスクと消毒液、ビニール袋等を大学側で用意していただけてありがたかった。

# 【国家試験対策・就職活動について】(新潟医療福祉大学)



## 取り組み内容

### 【国家試験対策】

- ・ 5月～12月 メディアにて国家試験対策講義
- ・ 1月 対面とメディアのハイブリットスタイルにて国家試験対策講義
- ・ 10月～12月 対面にて模擬試験（3回）
- ・ 国家試験前1週間、教員在中の自習室を設け個別対応にて支援した  
※ 対面講義の際は、感染症対策を徹底した

### 【就活活動】

- ・ 4月 公務員試験対策（メール配信）
- ・ 5月 WEB就職説明会
- ・ 6月 オンラインによる就職ガイダンス  
※ 採用情報及び求人情報をこまめにメール配信  
※ 担当教員および学部長・学科長・就職委員長によるサポート体制  
※ 面接練習（対面・メディア）や作文練習

## 新型コロナウイルス感染症を受けての学生の感想

### 【国家試験対策】

- ・ オンライン授業で分かりやすい資料提示がとてもよかった。わからないところを質問した際、メールや電話で分かるまで説明してくれたのですぐに解決できた。
- ・ 感染症拡大防止のため、遠方でほとんど大学に行けず、一人での戦いとなり不安感が大きかったが、先生方の書類の郵送など手厚い配慮があり、とても充実した試験勉強ができた。対面でもオンラインでも受けられるようにしていただき、本当にありがたかった。イレギュラーな中での先生方の対応がとても良かったと感じる。
- ・ 介護福祉コースのために国家試験までの1週間、先生方在中の自習室を設けていただいたことで、慣れた場所とすぐに質問できる環境が整い、集中して勉強することができた。厳しい状況ではあったが先生方が不安を感じさせない配慮があって助かった。

### 【就職活動】

- ・ 大学での面接練習やオンライン面接練習、作文練習など例年通りにできて良かった。友人に会えず周りの就職状況が把握できずだったが、ゼミ等で就職報告を毎週していたため、周りの状況把握ができ安心して就職活動が行えた。
- ・ 感染症拡大が不安で本来希望していた地域（県外）での就職は断念した。地元での就職活動はスムーズで検温やマスク着用等を求められる以外は例年と変わらないと思った。
- ・ 会社説明会、就職試験などすべてオンラインだったため、実際の雰囲気や職員の様子がわからず不安だった。県内でも職場見学が行われなかったり、ためらってしまうことがあり残念だった。

# 【地域交流：家庭介護セミナー】(新潟医療福祉大学)



## 取り組み内容

### 【北区 区づくり事業】

- ・大学生による家庭介護セミナーを令和2年10月24日、11月14日と2回開催。「楽しく学ぶ日頃の感染症対策」と題し、区民の方々に介護の知識やスキルを学ぶセミナーを開いた。
- ・セミナーのテーマでもある感染症対策として、①マスクの着用、②手指消毒、③参加者の検温、④体調や直近2週間以内の国内外移動状況の確認（氏名、連絡先記載）、⑤ソーシャルディスタンスの確保、⑥室内換気の徹底に努めた。また、レクリエーション活動の際は、参加者に使い捨て手袋使用して頂いた。
- ・学生と市民が、体操やクイズ、ゲームなどのレクリエーション活動の中で交流を行った。
- ・新型コロナの影響により、区民の方々がセミナーに参加し辛いこと状況であることを勘案し、家庭介護セミナーの内容をまとめたDVDを作成中である。

## 新型コロナウイルス感染症を受けての学生の感想

- ・ 昨年は衣服の着脱の介護をセミナーで行い、参加者に直接触れて介護の方法を伝えることができていた。今年はレクリエーションについても、参加者がお互いに触れる、近づく、近くで話すこともできないため、どのようなレクリエーションを展開するかを考えた。参加者に楽しんで頂けて安心した。
- ・ 参加者の方々が真剣に聴いて下さったことがうれしかった。次年度は他の学生にも引き継いでいきたい。
- ・ 感染症の対策について授業では習っていたが、いざ日常的に行うとなると難しいということに改めて感じた。
- ・ 道具や薬剤を適切に使うことで、安全に感染症予防ができる。
- ・ レクリエーションでは積極的に参加していただいて、とても盛り上がった。「楽しかったよ、またよろしく。」と言っていただいて、とてもやりがいを感じた。現在の状況でも感染予防対策をしっかり行い、活動内容を工夫すれば地域の方々をも交流を図ることができる。
- ・ 新型コロナによって、人との距離の取り方や話す位置にも注意しないとイケない。少し窮屈に感じるが、介護の支援を行うに当たって高齢者や障がいのある人など直接触れることになるので、介護者側が普段から注意していくことが大切だと思う。
- ・ 施設や病院ではもっと厳しい状況にあると思う。今後、私たちは福祉・医療の現場で働くことになるので、感染症の知識を深めその予防策を徹底すること、何より普段から自覚して行動することが必要だと思った。